

# Bridge38 2016児童福祉研修



参加者: 38期(側垣、春田、松原、中澤、望月、藤江、松本)  
37期(松本、中道、草野、成清、坂口)九州地区(尾里、軀川)

## メインテーマ

### 熊本地震から学ぶ『支援』

2017年1月25日、資生堂海外研修38期(Bride38)主催「2016児童福祉研修」を熊本で開催しました。

第1部は38期団員の児童心理治療施設こどもL.E.C.センターの松本氏から熊本地震の概要や直後の子ども達の様子や自分自身の被災体験の報告が行われました。また、こどもL.E.C.センター主任心理療法士の西村氏より、熊本地震で被災した子ども達のケア、職員のケアについての実践報告が行われました。

第2部は37期団員の児童養護施設甘木山学園相談支援部長坂口先生より、東日本大震災発生時から取り組まれている被災地支援や熊本地震での支援活動の報告、大牟田市での活動報告を踏まえた施設における地域支援のあり方の提言がなされました。

今回の熊本地震を受け、成功例や課題を全国から集まった参加者と共有し深めることができた有意義な研修会でした。



### 震災から9ヶ月 被災地の様子を視察

今回の研修会のもう一つの目的は「今の被災地の状況を知ってもらう」ことでした。震災直後は多くのマスコミに取り上げられましたが、今は殆ど語られない状況です。

熊本城は震災のダメージが大きく、復旧工事は殆ど進んでおらず、至る所で石垣が崩れたままで勇壮な姿を誇った天守閣も風化が進み無残な状況でした。益城町は家屋の解体作業が進展しており、更地の部分も多くなっていましたが、倒壊したままの家屋がまだまだあり、震災の爪あととは深いものでした。

震災から9ヶ月経過した状況を、見て、感じることで震災等の大規模災害に対して長期間の継続的な支援の必要性を改めて再認識しました。



### 食べて、飲んで、復興支援

熊本の郷土料理(馬肉料理)を食べ、地酒を飲みながら有意義な情報交換を行うことができました。

熊本地震では飲食店も大きなダメージを受けました。食べて、飲んで頂くことが熊本の復興に繋がります。来熊をお待ちしています。



### 研修を企画して

38期の同期会でしたが、熊本地震で支援をして頂いた37期の坂口先生にもお手伝いを頂きました。その縁もあり、37期の団長の松本先生を初め37期のメンバー、九州に在住するNPOSTARSのメンバーにも声をかけ、参加者を募る取り組みを行いました。

同期の横の繋がりがだけでなく、近隣県に在住する海外研修修了者も参加することで、縦や斜めの関係も発生、お互いの刺激や成長につながる機会であると認識しました。

こどもL.E.C.センター  
松本祐一郎